

特集 足の腱トラブル

introduction

本特集のテーマを「足の腱トラブル」とさせていただいたのは、最近、足の腱の何らかの損傷・障害で、整形外科外来を受診される患者数が増えていると感じているからであります。これまで、手の腱損傷・障害は話題になることが多くありましたが、足においてはアキレス腱断裂以外の腱損傷・障害に関しては、あまり注目されてきたとはいえません。しかし、足は地面と接地する唯一の器官であり、日常生活において大きな負荷を受けております。また、下腿の筋群から足に伸びる腱は、足関節において大きく走行が変わり、この部分でストレスが集中することになり、損傷や障害をきたすことになります。トップレベルのスポーツ選手はもとより、超高齢社会になり、定期的な運動習慣をもつ中高年が増え、オーバーユースによる慢性的な腱や腱付着部の障害をもつ患者も増加していることは間違いありません。

これまで腱の損傷や障害に関しては、明瞭な画像診断法があまりなく、必然的に局所の視診や触診に頼ることになり、適切な治療を施せないことも多くありました。しかし、最近では3テスラのMRIが導入され、軟部組織の画像診断の質が飛躍的に向上しました。そして、日常診療で超音波診断装置を用いることが多くなり、動的な評価が可能となり、整形外科医療が変革を遂げようとしております。そこで一度、足の腱のトラブルについて総合的にまとめる必要があると考えました。

本特集では、まず腱実質部と付着部に分けて総論的に病因と病態を解説いただき、次に最近の画像診断について超音波とMRIについて詳しく述べていただきました。また、各論ではアキレス腱の実質部と付着部障害、アキレス腱断裂の診断と保存治療、ならびに手術療法について、それぞれわが国の第一人者に解説いただきました。さらに、これまで注目されることが少なかった腓骨筋腱損傷に焦点を当て、足の腱脱臼の代表的な腓骨筋腱脱臼について詳解いただき、最後に、わが国の中高年に増加傾向にある、成人期扁平足の原因としての後脛骨筋腱損傷・障害ならびにバレリーナに特異的な長母趾屈筋腱損傷を取り上げさせていただきました。

本書が日常診療のお役に立つことを祈念いたしております。

奈良県立医科大学整形外科学

田中康仁